

令和 6 年度第 3 回半田市図書館協議会議事録

開催日時	令和 7 年 3 月 1 8 日 (火)	1 4 時～1 5 時 3 0 分
開催場所	半田市立図書館 第 1 会議室	
会議次第	1. 挨拶 2. 議題 ・令和 7 年度主要事業について (1) 図書館一般事務について (2) 図書館資料整備事業について (3) 図書館運営基本計画策定について 3. その他	
出席委員 (欠席委員)	出席委員 会長 榊原肇、副会長 原田眞偉子 委員 市野喜啓、齊藤裕美子、榊原俊一、佐藤幸恵、戸田弘美、船戸淑子、間明田みどり、(北中美郷) ※敬称略	
教育部	教育部長 森田知幸	
事務局	図書館長 藤井寿芳、副主幹 田村元成、主査 竹内由香、岩本紀子 主事 太田絢香	
	議事概要	
1. 挨拶 (教育部長)	(教育部長) ・日頃より、図書館運営にご理解とご協力をいただき感謝している。本日は、令和 7 年度の図書館の大きな三つの事業について、ご意見をいただきたい。 ・前は「こんな図書館あったらいいな」という議題で皆さんに本当に素晴らしい、ご意見いただいた。本日も議題について、忌憚のないご意見をいただきたい。 ・また、本協議会は、令和 6 年度としては今回が最後である。一年間ありがとうございました。任期は令和 7 年度までであるが、役職の関係で、委員の立場を離れても、引き続き半田市立図書館に対して様々なご意見ご指導をお願いします。	
2. 議題 ・令和 7 年度主要事業について	(事務局) ・(1) 図書館一般事務について事務局から報告。 (会長) ・2 ページ、3 ページの令和 7 年度図書館活動 (予定) について、星印のついている箇所は、ボランティア団体の方との協働とのこと。事業についてなにか意見はあるか。各委員からお話をお願いしたい。 (委員) ・きりんの会は、「読み聞かせ会」を実施している。現在読み聞かせの開催場所を本館エントランスホールで行うのか、館内絵本コーナ	

一で行うのか、図書館と調整中である。

・読み聞かせ会には、子どもから大人まで様々な方がきている。特に子どもには図書館が作成したスタンプカードがあり、読み聞かせ会等に参加すると、スタンプをもらえる。スタンプを5つ集めると、図書館で景品に交換してもらえるとのことで、次回参加や他のボランティアのイベントに参加につながるきっかけのひとつとなっている。

(委員)

・あんころもちでは、「ちいさいちいさい読み聞かせ会」を開催している。読み聞かせは0～2歳の子どもとその親が来てくれる。(7)にある「あかちゃんと絵本の出会い事業」で話を聞いた親子が、その後「ちいさいちいさい読み聞かせ会」に参加してくれることもある。

・他「ちいさいちいさいおたのしみ会」を開催する。以前は「パパと一緒に」というタイトルがついていたが、パパ以外に祖父母にも来てほしいことから名前を変更した。通常の読み聞かせ会とは異なり、手作りの作品もあり、令和7年度は新作披露を予定している。

・きりんの会と作品の貸し借りも行っている。

(委員)

・おだんごぱんの「おはなし会」は保育園から低学年層が多い。以前は、中学年の子らも来ていたが、現在は低年齢化している。

・以前からゲストティーチャー制度に登録しているが、ここ数年学童保育からのおはなし会の依頼が来て実施している。そこで聞いた子が半田市立図書館で実施するおはなし会に参加してくれるようになった。

(委員)

・毎週木曜日に栞の会として図書館の傷んだ本を修理しており、会員は現在19名。

(委員)

・文音会は、視覚障がいがある方向けに、本を読み上げ録音している。また、パソコンで編集作業も行っている。

・どこのボランティアも共通の課題と思うが、ボランティアの高齢化が進んでおり、パソコンが扱える方が限られている。新規のボランティアに入ってもらうため、できれば養成講座の実施を毎年度していただきたい。

(委員)

・お仕事ファイルのような事業はニーズに合っていると感じる。
・現在の教育現場では「人生を幸せに楽しく」という目標に向かって、子どもたちの自主性や探求心を育むカリキュラムが増えている。自分の興味や特性にあった仕事に就くと豊かに生活ができるのでは

ないかと考えられているようである。

- ・親が子どもの特性や仕事の内容を理解し、導いていくのが理想であり、最近では学校が著名な方を呼び、その職に就いた過程等を子どもと親が聞く等の例もある。

(委員)

- ・図書館にある多様な事業と公民館で連携できたらよいと感じた。
- ・公民館はどちらかといえば高齢者の利用が多い。その方々に本の紹介をしてもらおうと読書のきっかけになるのではと思った。

(館長)

- ・様々な意見をありがとうございます。
- ・読み聞かせ会の開催場所について、コロナ前は、図書館の絵本コーナーで行っていたが、密を避けることから現在のエントランスホールでの開催に変わった。他の団体にも共通することだが、現在のやり方が子どもたちにとっていいのかという視点で、今一度ボランティア団体らと話し、ベストな方法を探っていきたい。
- ・お仕事ファイルについて、令和6年度は、養蜂家の方をお招きして、養蜂業やミツバチに関することとお話しいただいた。養蜂家は単にハチミツを採るということだけでなく、食べ物の根幹を支える仕事ということを、親子で聞いていただいた。学校では学びきれない内容を今後も図書館で提供できたら良いと思っている。
- ・公民館との連携については、亀崎図書館は公民館内にあることから、高齢者向けに音読教室を行っている。脳の活性化や誤嚥の防止予防に音読が役立つということで実施しているが、亀崎にとどまらず、板山公民館はじめ各所でやれたらよいと感じた。
- ・来年度は既存の行事等を行政側と連携してよりパワーアップさせたいと考えている。また随時報告する。

(会長)

- ・(2)図書館資料整備事業について事務局から報告をお願いしたい。

(事務局)

- ・(2)図書館資料整備事業について事務局から報告

(会長)

- ・事務局からの説明があった「電子雑誌サービス」についてだが、20人までであれば、同時に閲覧できるという理解でよいか。

(事務局)

- ・そのとおり。

(会長)

- ・先日、鶴舞図書館に赴いた。休館日であったが、移動図書館の車両が置いてあった。移動図書館があれば、様々な場所で本が見れるようになるとよいと感じた。

(館長)

・図書整備費については、予算が厳しい中だが、知多半島で見たら高い水準である。今後も、この整備費について市民の潤い、学びのために守っていきたい。

・ただ、金額に関しては例年同様の額を確保できているが、物価高騰により本の価格があがっていることにより、新規購入冊数で見ると、減少している。

・会長から移動図書館の話があったが、魅力的に感じている。公民館には貸出文庫があるが、違う形でもっと身近で借りられる可能性を秘めていると思う。導入に至っては、単に車を買って本を積んで終わりではなく、誰が動くのか、どれだけ回るのか等課題がたくさんある。ただ、待っているだけの図書館ではなく、自分たちで外へ行きたいと考える。例えば市内でイベントをやっているときに、移動図書館の車を持っていき、本を読んだり、貸出できたりするとさらに読書を身近に感じられると思う。

まずは、来年図書館運営基本計画を作っていく中で、そういったことを盛り込んでいけたらと思っている。

(会長)

・移動図書館について、なにか意見はないか。

(委員)

・ボランティア活動で、地域の児童センターや学童に行くと、そこにある本が少ないと感じる場面があった。本が好きな子に、移動図書館であったり、貸出文庫だったりの形で本が届くと良いと思った。

(委員)

・自分の住んでいる地域には公民館や貸出文庫がない。一方で、岩滑公民館は、新しくなり、蔵書もある。子どもが興味を持つような本もおいてあり、外で遊ぶこともできるし、勉強もできるいい環境である。地域差があると感じている。例えば、自分が年を取り運転できなくなり、バスでの移動も億劫になってきたときに、自宅近くで本が借りれるということはすごくありがたい。ただ、半田市内の公民館等を整備して本をそれぞれに置くということは大変だと思う。移動図書館は1台で小回りが利くのではないかと魅力的に感じた。

(委員)

・移動図書館があればいいとは思いますが、地元のニーズがあるかは不安がある。

(館長)

・移動図書館以外に学校図書館と連携できたらよいと考えている。学校図書館の子どもたちが利用しない時間帯は市民に開放し、そこで半田市立図書館の本が貸出できたらよいと考えているし、愛知県内で実践している自治体もある。現在、乙川東小学校区で小学校の

建替があることから、公民館機能や子育て機能を持った施設を作っ
ていこうという考えがある。地域の方と考えている最中であるが、
学校図書館が地域の方々にとっても有用となるのではないかと考え
ており、乙川東小をモデルとして展開できたらいいと考えている。
・図書館はどこに建てたとしても、誰かにとっては来館しづらい場
所になる。そういった方たちにも図書資料を届けられるような図書
館を構想していきたい。

(会長)

・(3) 図書館運営基本計画策定について事務局から報告をお願いし
たい。

(事務局)

・(3) 図書館運営基本計画策定について事務局から報告

(会長)

・今の説明に、意見や質問はないか。

(委員)

・利用者アンケートだけでなく、無作為抽出のアンケートは良いこ
とだと思う。楽しみである。

(委員)

・学校では現在、教員の負担軽減を行っている兼ね合いで、放課後
の児童生徒の居場所が一部ないという現状がある。例えば、吹奏楽
部は防音設備が学校以外にあるところがなく、居場所がないと聞い
ている。建て替える話ではないが、建替時には、そういった居場所
のなくなった方を救えるフリースペースがあるとよいと感じた。

(会長)

・12月7日中日新聞で、半田市立図書館内で、パブリックコメン
トを実施し、その近くに関連図書を展示したと読んだ。提出件数な
ど結果等を知りたい。

(館長)

・パブリックコメントの投函件数は数件であったときいている。イン
ターネットからも提出されているらしいが、件数はまだ公開され
ていない。

・パブリックコメントに関連する図書展示については、市の施策に
関するものを利用者に訴える仕掛けが図書館になく、また行政との
結びつきも弱く感じたため、何かできないかと考え実施したもので
ある。市としては、課題があるから計画を作っていく。利用者の方々
に市の課題について興味関心を持っていただき、自分たちでできる
ことは自分たちで解決できないかと行動してほしいと思い、パブリ
ックコメントのタイミングで展示を実施した。

・来年度の4月からは行政の課題を、一か月に一つ、テーマを決め
ながら、特集コーナーとして展示していく予定である。行政が進め

	<p>ていることを市民の皆さんにも関心を持ってもらいたいと思っている。図書館に来館する方は特に知的好奇心が高いと感じている。自ら学び、動くことのできる市民が増えていけばいいと思う。(2)で説明した、図書整備事業費の中から関連する書籍を購入する予定である。</p> <p>・(3) 図書館運営基本計画についてはあくまでも、建物のようなハード面ではなく、図書館サービスの今後の10年の指針を検討するものとなっている。本日の話題でいえば、移動図書館のような施策を中に入れていきたいと思っている。なお、本施設が今後どうなるかは、まだ何も決まっていない。建替等が決まる前に、半田市の図書館はどのような使命や目的でやっていくのかということ、市民の皆さんの意見を伺いながら、計画に盛り込んでいきたいと考えている。</p>
3. その他	<p>(会長)</p> <p>・議題以外のことも、図書館に対して何か意見や質問がないか。</p> <p>(委員)</p> <p>・本のリクエストのことについて聞きたい。自分の読みたい本が、半田市立図書館になく、他市にあった。そういった場合、リクエストした本が購入される確率はどのくらいか。</p> <p>(事務局)</p> <p>・直接的な回答ではないが、基本的には、本のリクエストを出してもらったあとは、購入をするか、他の図書館に依頼して取り寄せて半田市立図書館で貸し出す(相互貸借)のどちらかとなる。</p> <p>・新刊図書は購入する場合もある。相互貸借は、発行から時間が経っていて入手しにくい場合や、利用が見込みが少ない場合が多い。図書館でどちらが適切か判断して、なるべく希望にこたえられるように努めている。なお、相互貸借は最短2週間で用意できるが、相手館の貸出状況や依頼のタイミングによる。</p> <p>(委員)</p> <p>・自分の読みたい本が、どこの図書館にあるかを利用者側が調べないといけないのか。</p> <p>(事務局)</p> <p>・図書館で調べるので、読みたい本の情報を書いて提出してもらえればよい。</p> <p>(委員)</p> <p>・3点ある。1点目は、博物館との連携について。今日は、エントランスに昔の給食や昔の遊びに関する展示があった。例えばそういうときに、図書館では、昔の遊びの本を展示してはどうか。</p> <p>・2点目は、講座イベントのインターネットでの申込受付である。他の図書館は、実施していることが多い。若い世代に気軽に申し込んでもらいたいので、検討してほしい。</p>

・3点目は、図書館の運営方法について。とある市町の図書館が指定管理であるが、月曜日に加え金曜日が休館となってしまった。理由は、指定管理業者の提示する金額が高く、人件費を抑えるため金曜日休館にすると聞いている。そうした事態に半田市はなってほしくないと思っている。

(事務局)

・1点目の博物館との連携については、毎回ではないが実施している。例えば、今年度は12月に愛知県の移動美術館が博物館で行われた際、図書館の入口で美術に関連する本の特集を行った。また来年度は、古い地域資料を電子図書館で閲覧できるようにするが、博物館が古地図の展示を考えているため、この際に連携して何か出来たらよいと思っている。

・2点目の講座イベントのインターネット申し込みは「抽選制」の時のみ実施している。先着の場合は、例えばだが最後の一枠になった際、電話申込とインターネット申込が両方同時にされる可能性があり、管理運用が難しいため抽選制のみとしている。ただ、ご提案を伺い、全てのイベントを一律抽選制とすることも検討したい。

(館長)

・3点目の運営方法についてであるが、指定管理であるからそうなのではないし、直営だからそうならないのではない。予算が付けられないから、人件費を減らす、そのために開館日数を減らしたということだと認識している。利用者が少ないから、夜間の時間を短くするなどと考えてよいと思うが、今後、半田市が直営であるのか指定管理であるのか、どのような形であれ、利用を制限することがある場合は、慎重に議論したうえでと取り組む必要があると思っている。

(委員)

・講座イベントの情報提供の仕方について聞きたい。また、小中学校から保護者のスマートフォンに情報が配信されるテトルは使っているか。

(事務局)

・現在は、図書館ホームページ、半田市公式LINE、紙のチラシが中心である。小中学校で利用されているテトルについては認識しているが、テトルでの配信手順についての課題があり、現在検討している最中である。

(委員)

・建替はしばらくしないとのことだが、頑丈な建物を建ててほしいと思っている。

(会長)

・先日江南市立図書館に訪問した。駅前であり、複合施設であった。

図書館の広報誌もあり親しみやすかった。だが、考えてみると、新刊は新しい施設、古い施設、どの図書館に行っても新刊である。半田市立図書館は歴史のある建物ではあるが、新刊は見られるし、十分機能を果たせていると思っている。今後、どうすれば市民に親んでもらえるかを考えていく必要があると思っている。

(委員)

・来年のイベントについて、行政と連携してさらに集客を見込みたいということで、メリットを感じている一方で、駐車場が足りないのではないかと危惧している。

(館長)

・我々も危惧していることで、近くの小学校を借り、関係者はそこに停める等案を検討していければと思っている。

(会長)

第3回半田市図書館協議会を終了する。

(終了)